

新カリキュラム編成・運用とシラバス

堀 田 明 男

1. はじめに

静岡大学では、1993年度の入学者から、新カリキュラムの導入を実施した。このカリキュラムの重点は、1・2年生に開講されていた「いわゆる一般教養科目」の編成に関する改革・改善であった。

教育体制とし、1993年度から1995年度までは、教養部の組織および学部の組織の形態を1992年度のままで、新カリキュラムを実施・運用した。1995年9月30日で教教部を廃止し、情報学部を新設したが、1995年度後半の教務上の運営は、従来の組織、即ち、教教部あるがごときで実施した。1996年度からの教養教育としての全学共通科目の教育の実施については、全学の教官が協力して開設にあたり、その計画・企画と運用・実施を全学組織で教養教育委員会が行うこととなった。共通科目のカリキュラムは、当分の間、1993年度の導入時と同様である。

私は、1992年度に教教部の教務委員長として、新カリキュラム導入計画に参加し、特に、全学の共通科目に関して責任者として、その科目編成と学年配分及びシラバスの編成にあった。1993年度から1994年度は、新カリキュラム運用調査検討委員会の委員長として、この新しい全学共通科目の実施・運用の責任にあたり、また学生への新カリキュラムについてのアンケートを実施した。1995年度からは、1996年度より実施予定の全学共通科目の運用・実施に向けて、教養教育委員会の授業計画・実施専門委員会の委員長及び教養教育委員長会副委員長として、全学の教官の担当の計画と調整及び実施・運用の任にあたっている。

このような事柄から、「シラバスの構成、作成過程、实际的な意義と効果、諸問題」について、カリキュラムの計画と運用の経験をとおして、述べてみたい。また10年以上の米国の大学での教育経験をも参考にコメントをしたい。

2. 新カリキュラムの概要とその運用

カリキュラムの構成と単位の学年配分を述べ、カリキュラム運用上、シラバスの必要性を浮き彫りにして行きたい。

(1) 授業科目の区分

① 専門科目：

専攻・学部に係る専門の学芸を教授するための授業科目

② 専門科目（基礎）：

理学、工学、農学の1・2年に自然科学のベースを学問体系にそって学習し、これらの基礎知識を基盤として、専門科目を修めていく。

③ 共通科目：

一般教育の再構築で、内容は次に述べる。

(2) 共通科目と専門科目（基礎）

これは、従来、教教部の責任であった教科目の「一般教育科目」と「基礎教育科目」を次のように編成を改めた。

① 主題別科目

「言語と文化」「社会と自然」「人間と行動」「地球と環境」「自然と数理」の5つの群で構成し、8単位（内1つの群から6単位）を必修8単位を越えた分は選択分の単位とした。

② 教養科目A・B

教養科目A：人文・社会科学領域の学問分野で編成

（哲学、歴史学、文学、社会学、法学、経済学、心理学）

教養科目B：自然科学領域の学問分野で編成

（数学、物理、化学、生物、地球科学）

文系の学生には教養科目Bを履修させ、理系の学生には教養科目Aを履修させる。2科目4単位必修で、1年次の時間枠に開講する。

③ フレッシュマンセミナー

一年生前期に2単位を、少人数形成のセミナー（20～26名）形式で展開。大学教育の目的や学習に適応させる導入教育である。

④ 外国語科目

英語及び未修外国語として、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語を開設。それぞれ4単位を全学必修。LLの導入、クラスサイズなど改善した（45名）。

⑤ 保健体育科目

必修として、基本体育学2単位（実技と講義の有機的結合）

選択として、スポーツ技術（実技・理論）

⑥ 総合科目

学際的・総合的なテーマに関する授業科目を、4単位を3年次に必修として導入。

⑦ 専門科目（基礎）

工学・理学・農学の各コース向けの科目。数学・物理学・化学・生物学・地球科学の講義、講義（＋演習）および、実験で構成され、1・2年次に開講される。

(3) 単位と単位の学年配分

4年一貫教育の単位配分として、次のような配分指針をとった。

② 1・2年次に共通科目と専門教育科目（基礎）を重点配分した。

高校から入学した学生の知的小および学問的知識の修得から、上記のようにした。

③ 選択の幅を増大し、学生の積極的な学習参加をはかった。

この③の選択の自由度を多くしたことが、学生の科目選択の資料として、シラバス

を充実し、読みやすく構成する必要がある。また、クラス選択に、マークカードとパソコンを利用し、迅速に処理する必要がある。この際も、資料としてのシラバスは重要である。

卒業単位数は、124単位以上（124が標準）で、内容は以下のようである。

	共通科目	専門科目（基礎）	専門科目
人文学部（人文コース）	40単位		84単位
教育学部（教育コース）	40単位		84単位
工学部（工学コース）	32単位	20単位必修	72単位
農学部（農学コース）	32単位	19単位必修	73単位
理学部（理学コース）	32単位	21～30単位 (必修と選択、学科により)	～70単位
情報学部 情報社会学科	40単位		84単位
※ 情報科学科	32単位		92単位

※1996年度より学生募集

(4) 共通科目の学年配分

選択の自由度を増し、学生に関心のある授業に参加させることを目的とした。実施・運用に際して、教室数と週5日に授業時間、それに教官数を考慮にいて、学年毎や学期毎に共通科目の授業の開講本数を計画し、かつ配分することによって、学生に履修を保障し、バランスのとれた、履修が出来るよう学年配分を考え実施し、期待した成果が得られた。共通科目の学年配分の表を参考につけた。

次に、数多くの授業開講から、学生が授業をシラバスにしたがって選び、受講クラス分けをパソコンで行い、短期間（3～4日）にクラスを決定した。これは、新カリキュラムから、授業を半年毎に完結することとしたため、授業日数の確保の上からも必要であり、学生と教官からも好感をもって受け入れられた。このサンプルをも参考につけた。

(5) 新カリキュラムの運用のポイント

運用の第1ステップ：学部専門科目の時間枠と共通科目の時間割り枠の調整・決定

選択の自由度を学生に保障することは、全部必修科目として組む時間割り枠と比較して、無駄に見える多くの時間枠が必要である。例えば、3枠から1つの科目を選択する場合、1人の学生にとって、3枠は完全に自由であることが必要であるが、1つの枠から選択したとき、その学生にとっては残りの2枠は、無駄になる。

全学の学生（1学年2000人余、1・2年で4000人を越える）対象に、多種のしかも選択の自由度の多い共通科目の授業時間割り編成は、静岡大学の歴史の中で、最も困難な事柄であった。必修科目が多く、学科単位の小編成の経験しかない学部教官に、時間枠における「必要な無駄の枠」の理解を得るのに苦労したし、今でも苦労している。

共通科目の学年配分計画

教育学部 (教育コース)	人文学部 (人文コース)	必修科目26単位							選択科目14単位					
		総	教	主	未	保	英	計	セ	主	英	未	保	計
	1年		4	4	4	2	2	16	0~2	0~4	0~2			0~8
	2年			4			2	6		0~8	0~2	0~4	0~2	0~14
	3年	4						4						
	4年							0		0~2	0~4	0~6	0~2	0~14
	計	4	4	8	4	2	4	26	0~2	0~14	0~8	0~10	0~2	14

(注) 総：総合科目、教：教養科目、主：主題別科目、未：外国語科目（未修）

保：保健体育科目、英：外国語科目（英語）、セ：セミナー

理学部 (理学コース)	工学部 (工学コース)	農学部 (農学コース)	必修科目26単位							選択科目14単位					
			総	教	主	未	保	英	計	セ	主	英	未	保	計
		1年		4	4	4	2	2	16	0~2	0~4	0~2			0~6
		2年			4			2	6		0~2	0~2	0~4	0~2	0~6
		3年	4						4						
		4年							0		0~2	0~4	0~6	0~2	0~6
		計	4	4	8	4	2	4	26	0~2	0~6	0~6	0~6	0~2	6

受講志望マークカード

学部	学年	学籍番号	区分	主	曜	時	受講希望順位(購読番号をマーク)										申請書	印	静岡大学
							第1希望	第2希望	第3希望	第4希望	第5希望	第6希望	第7希望	第8希望	第9希望	第10希望			
理	1	0000000000	理	理	月	2	0000000000	0000000000	0000000000	0000000000	0000000000	0000000000	0000000000	0000000000	0000000000	0000000000			
理	2	0101010101	理	理	火	3	0101010101	0101010101	0101010101	0101010101	0101010101	0101010101	0101010101	0101010101	0101010101	0101010101			
理	3	0202020202	理	理	水	4	0202020202	0202020202	0202020202	0202020202	0202020202	0202020202	0202020202	0202020202	0202020202	0202020202			
理	4	0303030303	理	理	木	5	0303030303	0303030303	0303030303	0303030303	0303030303	0303030303	0303030303	0303030303	0303030303	0303030303			
工	1	0404040404	工	工	金	6	0404040404	0404040404	0404040404	0404040404	0404040404	0404040404	0404040404	0404040404	0404040404	0404040404			
工	2	0505050505	工	工	土	7	0505050505	0505050505	0505050505	0505050505	0505050505	0505050505	0505050505	0505050505	0505050505	0505050505			
工	3	0606060606	工	工	日	8	0606060606	0606060606	0606060606	0606060606	0606060606	0606060606	0606060606	0606060606	0606060606	0606060606			
工	4	0707070707	工	工	月	9	0707070707	0707070707	0707070707	0707070707	0707070707	0707070707	0707070707	0707070707	0707070707	0707070707			
農	1	0808080808	農	農	火	10	0808080808	0808080808	0808080808	0808080808	0808080808	0808080808	0808080808	0808080808	0808080808	0808080808			
農	2	0909090909	農	農	水	11	0909090909	0909090909	0909090909	0909090909	0909090909	0909090909	0909090909	0909090909	0909090909	0909090909			

運用の策2ステップ：シラバス作成、選択およびクラス割り当て。

マークカードを利用して、3日～4日間でクラスを決定し円滑な運用をはかった。

学生に授業選択において、十分な情報をシラバスで与えることが必要である。

運用の第3ステップ：履修の方法の改善、シラバスの改善、教育評価

1993年度と1994年度の2回、共通科目（主題別科目、教養科目A・B、セミナー）について、全1・2年生からアンケート調査を実施した。1995年度度も継続調査予定。

3. シラバス

(1) 構成

構成要素として、つぎの事柄がある。

- ① 授業科目 ② 教官氏名
- ③ 開講に関すること（期別、曜日、時限、対象学生と学年、講義番号）
- ④ 授業ねらい・概要（学生に理解できる言葉で記述）
- ⑤ 授業計画（半年14回の授業の計画をわかりやすく記述）
- ⑥ テキスト、参考書、成績評価の方法

共通科目と考参例（筆者と協力者の1995年度用シラバス）をつけた。

(2) 作成過程

静岡大学の共通科目の開講総本数について、シラバスの数を算定すると次のようである。（1人の先生が、同じ授業科目名で、前期と後期に担当または異なる学生を対象に開設する場合、シラバスは1つと数える。）

科 目	シラバス数	科 目	シラバス数
主題別科目	約100	外国語	約100
教養科目A・B	約 30	保健体育	約 70
フレッシュマン セミナー	約 90	総合科目 (3年次必修)	約 40

シラバスの総数 約430

1996年度の共通科目のシラバスについて、書式を定めて、担当者全員（非常勤講師をも含めて）は、フロッピーと打ち出しのコピーをつけて期日までに提出することとした。このフロッピーを業者に渡して、印刷処理をする。本文、上記の④～⑥については、フロッピー原稿を使用し、この分校正はしない。この方式を導入して、現在無事に進行中です。

上記の④～⑥について、45字×42行とし、今回から横書き横組と変更しました。企画

室の教務係と授業計画・実施専門委員会は、講義番号、時間枠などの割り振りを行う。今までは、フロッピーでの原稿を原則とし、手書きの原稿も一部認めたこともありましたが、校正や出来上がるまでの時間・期間などに問題があり、今回から改善しました。

(3) シラバスの記載と学生の評価

アンケート調査によると、次のような結果であった。

(学部・コース毎に集計しているが、この報告では、全体としての集計の傾向を述べる)

- ① マークカード方式によるクラスの決定の際に、授業科目の選択志望にシラバスが参考になったかについて。

「大変参考」と「ある程度」の和が90%弱で、ほぼ目的が達している。

- ② シラバス記載が学生に分かりやすいか。

「理解しやすい」と「ほぼ理解」の和が85～80%であ、ほぼ目的が達している。

しかし、「理解しやすい」が約20%であることから、学生の理解しやすいシラバス記載が望まれる。

- ③ 授業の内容とシラバス記載の整合性および授業の満足度について

学生はシラバスにそって、授業をすることを望んでいる。

{アンケート調査の概要を参考に付けました。グラフは省いた。}

(4) シラバスの意義

- ① 共通科目の授業選択には、シラバスは重要な資料である

新カリキュラムのように選択の自由度が多くなった場合、適切かつ迅速なクラス分けにマークカード方式の導入が必要であり、この際、シラバスは重要である。従来のように、教官に受講カードを出して、受講を認めてという方式では、教官（授業担当）を探して数週間たってしまうこともあり、問題がある。また、クラスサイズについても教官の好みが出て、これも問題である。

- ② 授業（講義）と契約

授業は、教室における教官の密室の行為であってはならない。教官は、大学と学生に、このような授業を提供するという、契約の公開がシラバスである。従って、シラバスをみて、志望し、コンピューターの抽選で、クラス分けされた学生の受講は、契約に基づいて、自動的に受付ける。静岡大学の共通科目では、このようにしている。研究の自由を教室における教官の密室の行為と誤解する教官は、ないことはない。しかし、学生の純粋な目を素直に受け入れるべきである。多くの教官が、シラバスの意義の理解を示してきている。

4. あとがき

シラバスは、新カリキュラム編成と運用において、重要な位置をしめている。

今後の大学の教育の改善で、より良いシラバスの編成は望まれる。この場合、単に教官サイドの思惑や体裁でなく、学生のレスポンスをどのように公正・公平に取り入れるかが課題である。教官の誘導的な恣意の入った調査は、教室における教官の密室の行為を助長するため、避けなければならない。

大学教育の発展とファカルティーデベロプメントについて、優れたリーダーの養成について、米国の大学での経験を参考に述べたい。

大学運営のルールに関して、米国の大学方式は、優れたリーダーのいる民主主義ルール集団であり、一方、日本の大学方式は、リーダー不在の寄合的村集団である。

マインドに関しては、米国の大学教官は、契約社会のルールに従うセールスマン精神をもち、社会との接点及び学生との関連を考えることができる。一方、日本の大学教官は、自己の狭い専門領域にこもり、4 畳半的な自己満足で、授業は教官が勝手に専門を述べればよしとする傾向がある。

これらを考えて、これからどのように優れたリーダーを育てるかである。

日本におけるファカルティーデベロプメントの定着とその在り方の研究が望まれる。

学部改組、教教部廃止という枠組みの変更だけでは、日本の大学の発展は困難である。

教育者として、優れたリーダーが必要である。

5. 資料 「1995年シラバスより」

教 養 科 目 B

授 業 科 目 (講 義 題 目)						<p>〈授業のねらい・概要〉</p> <p>基礎科学の発展と現代科学技術がもたらした事柄を、教科書的なことを離れて、1年生を対象に分かりやすく解説をします。</p> <p>テーマとして、現代物理学の基本的な事柄や考え方をとりあげます。これは、科学と人間存在、技術と社会について、その基礎となった現代物理学の理論や実験事実を理解して科学的批判を養い、これからの21世紀において、皆さんに社会の中堅として活躍して欲しいからです。</p> <p>〈シラバス・授業計画〉</p> <p>教官が特別に編集したプリントを使用します。実験事実、新しい発見がどのようになされ、それらが何をもたらしたかを学習します。数式（公式）は事柄を述べるとき使うが、この授業では参考程度。従って、<u>高校で物理を学習したかどうか心配はありません。</u></p> <p>1 ：講義の予定を解説。学習方法説明。</p> <p>2～4：相対性理論について</p> <p>① Einsteinは、なぜ特殊相対性理論考をえたのか？ 光の速さ測定、光速不変の原理、ローレンツ変換、時間と空間の関係を学習する。</p> <p>② 次に、特殊相対性理論のもたらす事柄を学習する。 (a) 時計の遅れ、長さの収縮、同時の相対性 (b) 相対論的エネルギーと原子力の関係</p> <p>5～8：原子力・放射線</p> <p>① 核エネルギーを利用する方法と原子力発電 原子炉と原理とタイプ。核燃料物質。日本の原子炉。 原子炉の諸問題（現在の課題、将来の問題） エネルギー政策と原子力および環境問題の関連。</p> <p>② 放射線は、何処からくるのか。 放射線の実体。どんな性質。放射線の利用。 人体放射線。放射線をどのように検出するか。</p> <p>9～11：原子核と核力</p> <p>① 原子核の存在とその構成および大きさ ラザフォードの実験と原子核の存在の検証。 チャドイックの中性子存在の発見。 原子核の大きさは、どのように実験して検証。</p> <p>② 核力の存在と湯川中間子 ③ 究極の物質とクオーク。</p> <p>12～13：量子と原子モデル</p> <p>① プランクの量子の考えは、どのようになされたか。</p> <p>② ボーアの原子モデル ラザフォードの原子モデルの欠陥。 ボーアの電子の指定席と光のスペクトル。</p> <p>14：講義で学習した事柄について、実験に参加して確かめてます。 テーマはつぎのようです（楽しい経験です） (a)GM管で放射線の検出 (b)光のスペクトル (c)超伝導などです。</p>
物 理 学						
担 当 教 官 氏 名						
堀 田 明 男						
開 講						
期別	曜日	時期	対 象 コース	学 年	講義番号	
前期	水	1・2	教育	1	0332	
後期	水	3・4	人文	1	0352	

〈テキスト〉

プリントを授業で配布します。

〈参考書〉

特にありません

〈成績評価〉

レポート形式のテスト

自然と数理

授 業 科 目 (講 義 題 目)					
自然現象Ⅳ (原子・原子核の世界)					
担 当 教 官 氏 名					
堀 田 明 男					
開 講					
期別	曜日	時期	対 象 コ ー ス	学 年	講義番号
前期	月	3・4	人工農 教工農	1 2	0904
後期	月	3・4	人工農 教工農	1 2	1903
<p>〈テキスト〉</p> <p>プリントを授業で配布して使 用します。</p> <p>〈参考書〉</p> <p>特にありません。</p> <p>〈成績評価〉</p> <p>レポート形式のテストと小レ ポート1回</p>					
<p>〈授業のねらい、概要〉</p> <p>原子と原子核の世界について学習します。最新の科学と技術は、原子や原子核の分野に関連することが多くあります。従って、この分野の事柄を学習することは、皆さんがこれから新しい科学や技術および近代技術がもたらす事柄を理解して行く上に大切です。</p> <p>現代物理の実験事実・新しい発見がどのようなぬなされたかに重点をおいて講義を行ないます。</p> <p>◎高校で物理を学習したかは問いません。自然科学についての興味をもって授業に参加してください。</p> <p>〈シラバス・授業計画〉</p> <p>1 講義要綱：講義の予定と学習の方法について。</p> <p>2～3 原子物理の誕生となった次の事柄について学習します。</p> <p>(a) 気体放電と線スペクトルの発見</p> <p>(b) X線の発見</p> <p>(c) 放射線（放射性物質）の発見</p> <p>これらから、原子には構造があることが分かった。</p> <p>4～5 原子のモデル（その1）</p> <p>(a) 電子の発見はどのようになされたか。</p> <p>(b) ミリカン、トムソン等による一連の実験について。</p> <p>(c) トムソンの原子モデル</p> <p>(d) 負の電荷の実体としての電子と正の電荷の実体</p> <p>6～7 電子のモデル（その2）</p> <p>(a) ラザフォードのα線の散乱実験とその結果</p> <p>(b) 散乱式とラザフォードの惑星原子モデル</p> <p>(c) ラザフォードのモデルの困難点</p> <p>8～9 原子のモデル（その3）</p> <p>(a) 量子論の考えとプランク</p> <p>(b) ボーアの新しい考え・原子モデルとその発展</p> <p>10～11 原子核の存在とその構成粒子</p> <p>(a) 核の存在はどのように検証されたか</p> <p>(b) 陽子・中性子の検証と核をまとめる力（核力）</p> <p>(c) 核の大きさを検証する高エネルギー電子散乱実験</p> <p>12～13 原子・原子核という超微小な世界を支配する法則について</p> <p>(a) 相対性理論とエネルギーおよび力</p> <p>(b) 量子論・量子物理と不確定性原理</p> <p>14 トピックスについて解説します。</p> <p>(a) 究極の物質（クォーク）は存在するか</p> <p>(b) 原子核に関する最新の実験について</p> <p>私が参加している米国MITでの実験プロジェクトに関連して解説します。</p> <p>(c) その他、学生の皆さんの興味ある課題についてテーマを選び解説をし、また一緒に学習します。</p>					

言語と文化

授 業 科 目 (講 義 題 目)					
文化テキストと解釈Ⅰ (都市と文学・2つのテキスト)					
担 当 教 官 氏 名					
森 本 隆 子					
開 講					
期別	曜日	時期	対 象 コース	学 年	講義番号
前期	月	1・2	教 人・理・農	1 2	1502
後期	月	3・4	人・工・農 教・工・農	1 2	1505

〈テキスト〉

初回に指示（右の一部）

〈参考書〉

磯田光一『鹿鳴館の系譜』
(講談社文芸文庫)

前田 愛
『都市空間のなかの文学』
(ちくま学芸文庫)

山崎正和『不機嫌の時代』
(講談社学術文庫)

〈成績評価〉

小課題3回程度
大レポート1回

〈授業のねらい、概要〉

「文学^{テキスト}作品」の「読み」とは何だろうか？

それは、必ずしも＜作者の意図＞を読み取ることで、また＜ストーリーの要約＞に努めることでもないはずだ。

たとえば、夏目漱石の『坊っちゃん』。あなたは、なぜ「坊っちゃん」と呼ばれる主人公に名前がなく、なぜ「清」は「お墓の中で」坊っちゃんを待っているのか考えてみたことがあるだろうか。単純明快な悪党退治の背後には、「江戸」から「明治」へ、失われてゆく時空間と生成してくる時空間の激しい緊張の物語が潜んでいる。

ここでは、日本の近代小説と都市空間東京——応答しつつ生成してゆく2つのテキストを読んでみたい。

〈キーワード〉

テキスト、近代、都市、遊民、自己と他者

〈シラバス・授業計画〉

1 問題提起：なぜ「坊っちゃん」は「江戸っ子」か？

2～3 「近代」の出現：共同体的世界観の崩壊

○ 樋口一葉『たけくらべ』より

・2つの世界——地縁の論理と金銭の力

○ 夏目漱石『坊っちゃん』の敗北

4～6 上京する青年たち：『帝都』のエリートと無用者の系譜

○ 鷗外『舞姫』のベルリン

・貴種流離と回帰の物語

○ 恋愛・学問・人生の春

・島崎藤村『初恋』とその挫折

○ 「水底^{ミナソコ}の世界」と「不機嫌の時代」

・横臥か不機嫌か——上昇願望を拒絶する

○ 漱石『こころ』の選択

・「高等遊民」は近代文明を批評する

7～8 大正の「迷宮都市」：漱石から乱歩まで

○ 「高等遊民」と「探偵」の接点

・友愛と猜疑の自己分裂——観察・研究・解釈

○ 乱歩『屋根裏の散歩者』と『D坂の殺人事件』

・帝都成立の裏側で——密室・欲望・覗き

9～10 関東大震災と帝都復興：昭和の大衆文化

○ モダニズムの詩人たちは都会を描く

○ 「私とは他者である」(ランボー)

・視線と羞恥——梶井基次郎から太宰治まで

○ 川端康成『浅草紅団』と『少年探偵団』

・疎外される下町空間——不良少年と見世物小屋

11～13 東京の膨張と戦後空間：郊外の発展、隅田川の衰退

○ 虚ろな都市とアイデンティティの喪失

・失踪者の物語——安部公房

○ スプロール現象と夫婦家族

・閉じられた私的空間——古井由吉

14 記号としての消費都市：ノリつつ醒める

○ 村上春樹ワールドへの招待

1994 年度

新カリキュラム運用調査アンケート

報 告 書

静 岡 大 学 教 養 部

新カリキュラム運用調査検討委員会

新カリキュラム運用調査検討委員会

委員長
委員

〃
〃
〃
〃
〃

堀田明男
大野繁一
玉置道生
林本隆子
森岡哲男
松山晶彦

1994年度カリキュラム運用調査

1：目的

調査の主な目的は次のようである。

- (1) 授業科目（授業クラス）の志望を決めた基準（選択肢を改善した）
- (2) 授業クラスの志望を決めるに、シラバス（授業科目案内）がどの程度参考になったか。
- (3) シラバスの記載の理解度
- (4) 受講科目と関心とのつながり（新）
- (5) 授業内容とシラバスの整合性
- (6) 授業クラスの抽選結果の満足度
- (7) 授業の満足度
- (8) 授業の満足度の判定基準（新）
- (9) 1993年度に実施した次の調査は、データがとれたので、今回は実施しない。
 - ・マークカードによる選択科目の決定についての学生の意向調査
 - ・クラスサイズの調査

2：調査方法

- (a) 調査事項と調査方法及び集計の方法について、昨年1993年度を参考に検討し、修正した案を11月の教授会に提出し承認された。調査は、1・2年全員を対象に授業時間利用して11月下旬～12月下旬に実施した。
- (b) 用紙は、B4のマークシートを使った。調査事項の説明とマーク記入欄が1枚の用紙に記載した。

調査事項の説明用紙とマーク記入欄用紙の別なものに比べ、能率が良い利点がある。

- (c) 使用器材：

マークシートリーダー	2台
パソコン	2台
マークシート作成ソフト	
プリンター	
集計ソフト、グラフ作成ソフト	

3：調査結果

- (a) アンケート集計をグラフ化して見易くした。
- (b) 集計のまとめを作成した。

以下に、集計のまとめとグラフを示した。

1994年度 新カリキュラム運用調査アンケート集計

1995. 2. 8.

教養部新カリキュラム運用調査検討委員会

実施の期間：1994年11月29日～12月 5 日

対象学生：1 年次生・2 年次生全員

アンケート：マークシート方式（別紙参照）

◎アンケート調査用紙を提出した学生数

（調査時の授業に出席していた学生）

	提出学生数	受 講 生 との割合	受講生登録学生
人文コース	366名	73.1%	501名
教育コース	415名	80.9%	513名
理学コース	151名	70.6%	214名
工学コース	393名	78.3%	502名
農学コース	117名	70.1%	167名
1 年次生 計	1,442名	76.0%	1,897名
人文コース	372名	77.8%	478名
教育コース	402名	79.4%	506名
理学コース	161名	75.9%	212名
工学コース	411名	81.7%	503名
農学コース	167名	99.4%	168名
2 年次生 計	1,513名	81.0%	1,867名
合 計	2,955名	78.5%	3,764名

カリキュラム運用調査

教 養 部

1994.12

1993年度から新カリキュラムを実施しました。このアンケートは、教養部カリキュラム運用調査委員会の資料として利用し授業の展開に役立てたいと思います。この調査に、ご協力下さい。主観別科目を主観別、教養科目A・Bを教養科目、フレッシュマン・セミナーをセミナーと略します。
※複数受講している科目(主観別、教養科目)については、それぞれ全体的な感想を記入して下さい。

学籍番号: (a) (b) (c) ☐ ☒ ☐ ☒ - ☐ ☒ ☒ ☒

学年: _____ コース: _____ 学科(課程): _____

上の学籍番号記入欄の(a)~(c)の□の数字をマークして下さい。(マークの例: 0000)

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
 (a)→ () () () () () () () () ()
 (b)→ () () () () () () () () ()
 (c)→ () () () () () () () () ()

記入上の注意

HBの鉛筆でマーク欄にきちんとマークして下さい。
ボールペン・サインペン等は、読み取れません。

- 1) 授業科目(授業クラス)の志望を決めた基準はどれになりますか。
主観別、教養科目、セミナーについて、(a)~(f),(g)の選択肢の中から、それぞれ2つまで選んでマークして下さい。

(選択肢)	主観別	教養科目	セミナー
(a) シラバス(授業科目案内)	(a) ()	(a) ()	(a) ()
(b) 授業科目の名称	(b) ()	(b) ()	(b) ()
(c) 高校で受けた授業との関連	(c) ()	(c) ()	(c) ()
(d) 単位が取りやすい科目	(d) ()	(d) ()	(d) ()
(e) 教員の評判・先輩の助言	(e) ()	(e) ()	(e) ()
(f) 授業の行われる時間帯	(f) ()	(f) ()	(f) ()
(g) 授業科目がどの主観群に属しているか	(g) ()		

※(a)~(f),(g)以外の基準で志望を決めた場合は、それをここに書いて下さい。

- 2) 授業科目の志望を決めるのに、シラバス(授業科目案内)は参考になりましたか。
主観別、教養科目、セミナーについて、(a)~(d)の選択肢の中から、それぞれ1つ選んでマークして下さい。

(選択肢)	主観別	教養科目	セミナー
(a) 大変参考になった	(a) ()	(a) ()	(a) ()
(b) ある程度参考になった	(b) ()	(b) ()	(b) ()
(c) あまり参考にならなかった	(c) ()	(c) ()	(c) ()
(d) ほとんど参考にならなかった	(d) ()	(d) ()	(d) ()

実物はB4判

- 3) シラバス(授業科目案内)の記載はわかりやすかったですか。
主観別、教養科目、セミナーについて、(a)~(d)の選択肢の中から、それぞれ1つ選んでマークして下さい。

(選択肢)	主観別	教養科目	セミナー
(a) 理解しやすかった	(a) ()	(a) ()	(a) ()
(b) ほぼ理解できた	(b) ()	(b) ()	(b) ()
(c) あまり理解できなかった	(c) ()	(c) ()	(c) ()
(d) ほとんど理解できなかった	(d) ()	(d) ()	(d) ()

- 4) 授業科目の受講後、あなたの「関心」とのつながりを、あなたの気持ちに近いものを1つ選んでマークして下さい。

(選択肢)	主観別	教養科目
(a) 授業科目のうち、いくつかは初めから自分の「関心」と重なっていた。	(a) ()	(a) ()
(b) 授業科目のうち、ひとつは初めから自分の「関心」と重なっていた。	(b) ()	(b) ()
(c) 初めは「関心」がなかったが、受講後に関心を持った授業科目もあった。	(c) ()	(c) ()
(d) 授業科目のうち、どれも自分の「関心」との関連は弱かった。	(d) ()	(d) ()
(e) 今のところ、授業内容には関心が持てない。	(e) ()	(e) ()

- 5) 次の①~④の項目に関して、主観別、教養科目、セミナーについて、(a)~(d),(e)の選択肢の中から、それぞれ1つ選んでマークして下さい。

① 授業内容とシラバスの整合性

(選択肢)	主観別	教養科目	セミナー
(a) シラバスどおりであった	(a) ()	(a) ()	(a) ()
(b) ほぼシラバスどおり	(b) ()	(b) ()	(b) ()
(c) ややシラバスと異なった	(c) ()	(c) ()	(c) ()
(d) シラバスと異なった	(d) ()	(d) ()	(d) ()

② 授業の抽選結果

(選択肢)	主観別	教養科目	セミナー
(a) 満足	(a) ()	(a) ()	(a) ()
(b) ほぼ満足	(b) ()	(b) ()	(b) ()
(c) やや不満足	(c) ()	(c) ()	(c) ()
(d) 不満足	(d) ()	(d) ()	(d) ()

③ 授業の満足度

(選択肢)	主観別	教養科目	セミナー
(a) とても良かった	(a) ()	(a) ()	(a) ()
(b) ほぼ満足	(b) ()	(b) ()	(b) ()
(c) やや不満足	(c) ()	(c) ()	(c) ()
(d) 不満足	(d) ()	(d) ()	(d) ()

④ 授業の満足度を判定した基準

(選択肢)	主観別	教養科目	セミナー
(a) 授業の内容	(a) ()	(a) ()	(a) ()
(b) 内容よりも試験の結果	(b) ()	(b) ()	(b) ()
(c) 授業の楽しさ	(c) ()	(c) ()	(c) ()
(d) 自分の学力にあった授業	(d) ()	(d) ()	(d) ()
(e) 自分の関心とあった授業	(e) ()	(e) ()	(e) ()

1) 受講科目の志望基準 (2つの選択肢回答)

[94年度：①、② 93年度関連の図 6]

(1) 主題別科目

1位 シラバス (約80%)

2位 主題群 (40~50%)

3位 評判・助言 (約30%)

その他 時間帯 2年生 10~18%

(2) 教養科目

1位 シラバス (全体60%強、理工農約70%)

2位 高校授業 (人文、教育50~40%)

評判・助言 (理工農25~40%)

文系コースと理系コースの2位に変化あり。大学の授業科目名称に関連。

3位 科目名称 (人文1年、教育1年)

単位取得易さ (人文2年、工学2年、工学1年)

(3) セミナー

1位 シラバス (約80%)

2位 科目名称 (約30%)

3位 評判・助言と時間帯

2) 授業科目の志望決定にシラバスが参考になったか。

[94年度：図③、④ 93年度関連 図7]

(1) 主題別科目：全体について、「大変参考」と「ある程度」の和が90%弱。

93年度の傾向と類似。

(2) 教養科目：主題別に比べて、参考の度合いが低い。

1年生は、大変参考とある程度合わせて約73%で、2年生より低い割合。

(3) セミナーは、「大変参考」と「ある程度」の和が、2年生70%強、1年生約76%。

また、1年生の「大変参考」が約28%で、これは志望順位を5位までにしたことに関連。

3) シラバス記載が学生に分かりやすいか。

[94年度：図⑤、⑥ 93年度関連 図8]

(1) 全体として「理解しやすい」20%から20%弱である。

(2) 「理解しやすい」と「ほぼ理解」の和、

主題別科目：85~83%。

教養科目：80%弱

セミナー：74～78%

- (3) 今後、学生の理解しやすいシラバス記載を工夫することが望まれる。

4) 授業内容とシラバスの整合性

[94年度：図⑦、⑧ 93年度関連 図9]

- (1) 「整合性が良い」と「ほぼ整合」の和、
主題別科目：73%～75%、教養科目：78～75%
セミナー：63%～72%、1年生の割合が良い。

5) 抽選結果

[94年度：図⑨、⑩ 93年度関連 図10]

- (1) 「満足」と「ほぼ満足」の和を見ると、ほぼ昨年と同様である。
(2) 主題別科目の1年生、「満足」が42%と昨年より向上した。
(3) 「満足」、「ほぼ満足」と「やや不満」の和、
主題別科目で、90%強である。

6) 授業の満足度

[94年度：図⑪、⑫ 93年度関連 図11]

- (1) 「とても良い」と「ほぼ満足」の和の割合
昨年、全体において、60%近傍である。
94年度、主題別科目：約72%、教養科目：67%～62%、セミナー：64%～74%、と
向上している。
(2) セミナーでの「不満足」の割合が、半減し約10%～5%となった。
(昨年より、セミナーの数を増した。また希望順位を5位迄とした為)

7) 授業の満足度判定基準（新）

[94年度：図⑬、⑭、⑮、⑯]

- (1) 主題別科目
1位 授業内容、2位 関心との適合、3位 楽しさ
(2) 教養科目
1位 授業内容、2位 関心との適合、3位 楽しさ
(3) セミナー
1位 授業内容、2位 楽しさ、3位 関心との適合

8) 学生の関心と受講した授業科目とのつながり（新）

[94年度：⑰、⑱]

- (1) 主題別科目

2年生：多数関心50%強、一関心20%強、受講後関心約15%

これらを合わせて、80%強

1年生：多数関心45%強、一関心26%強、受講後関心約13%

これらを合わせて、約83%

(2) 教養科目

全体 多数関心約20%、一関心27%強、受講後関心約18%

これらを合わせて、約63%

コースによるバラツキあり。

履修科目の性質（文系の学生に理系科目、理系の学生に文系科目を履修させている）

9) 関心—授業満足度の相関（新）

[94年度：①⑨、②⑩]

(1) 関心の多くある授業科目が満足度と相関している。

(2) 主題別科目と教養科目を比べると、主題別科目のほうが相関が明らか。

10) シラバスの整合性と授業の満足度の相関

[94年度：図②⑪、②⑫ 93年度関連 図15]

(1) 相関がある。

(2) シラバスにそって、授業することを学生は望んである。

11) 抽選結果—授業の満足度の相関

[94年度：図②⑬、②⑭ 93年度関連 図16]

(1) 教養科目とセミナーにおいて相関性が高い。

(2) 主題別科目では、教養科目とセミナーより相関が低い、シラバスの整合性と授業の満足度と比べると相関は高い。

14) シラバス記載とクラス選択に利用あた相関

[94年度：図②⑮、②⑯ 93年度関連 図17]

(1) 記載が「理解しやすい」「ほぼ理解出来る」には、明らかに相関みられる。

(2) 非参考は、シラバスでない別の選択基準によっていると思われる。

15) 満足度判定基準—授業満足度との相関（新）

[94年度：図②⑰、②⑱]

(1) 各授業の満足度について、判定の基準の項目との相関は、興味深い。

授業のすすめ方の参考になる。

1993年度

新カリキュラム運用調査アンケート

報 告 書

静 岡 大 学 教 養 部

新カリキュラム運用調査検討委員会

カリキュラム運用調査

I：目的

調査の主な目的は次のようである。

- (1) 新カリキュラムの運用において導入した、マークカードによる選択科目の決定についての学生の意向
- (2) 授業科目（授業クラス）の志望を決めた基準
- (3) 授業クラスの志望を決めるために、シラバス（授業科目案内）がどの程度参考になったか。
- (4) シラバスの記載の理解度
- (5) 授業内容とシラバスの整合性
- (6) 授業の満足度
- (7) 授業クラスの抽選結果の満足度
- (8) クラスサイズについて

II：調査方法

- (1) 調査項目と調査方法及び集計の方法について、7月から開始し、検討した案を12月の教授会に提出し承認された。
調査は、1年生全員を対象に授業時間利用して12月下旬に実施した。
- (2) 用紙は、B4 マークシートを使った。調査項目の説明とマーク記入欄が1枚の用紙に記載した。
調査項目の説明用紙とマーク記入欄用紙の別なものに比べ、能率が良い利点がある。
- (3) 使用器材： マークシートリーダー 1台
パソコン 1台
マークシート作成ソフト
プリンター
集計ソフト、グラフ作成ソフト

III：調査結果

- (1) アンケート集計をグラフ化して見易くした。
- (2) 集計のまとめを作成した。

以下に、集計のまとめとグラフを示した。

1993年度 新カリキュラム運用調査アンケート集計

1993. 12. 24.

教養部新カリキュラム運用調査検討委員会

実施の期間：1993年11月29日～12月10日

対象学生：1年次生全員

アンケート：マークシート方式（別紙参照）

◎アンケート調査用紙を提出した学生数

（調査時の授業に出席していた学生）

	提出学生数	受 講 生 との割合	受講登録学生
全学生（1年生）	1397名	73.7%	1896名
人文コース	378名	77.9%	485名
教育コース	432名	84.2%	513名
理学コース	104名	48.4%	215名
工学コース	345名	66.9%	516名
農学コース	138名	82.6%	169名

全体として、調査協力は良いパーセントである。

理学コースのみ調査の割合は低く、調査項目の集計結果の評価には、注意を要する。

カリキュラム運用調査

教 養 部

1993.12

1993年度から新カリキュラムを実施しました。このアンケートは、教養部カリキュラム運用調査委員会の資料として利用し授業の展開に役立てたいと思います。この調査に、ご協力下さい。主題別科目を主題別、教養科目A・Bを教養科目、フレッシュマン・セミナーをセミナーと略します。
※複数受講している科目（主題別、教養科目）については、それぞれ全体的な感想を記入して下さい。

学籍番号: (a) ☐ (b) ☒ 3 (c) ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

学年: _____ コース: _____ 学科(課程): _____

上の学籍番号記入欄の(a)~(c)の□の数字をマークして下さい。(マークの例: ☒)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(a)→	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
(b)→	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
(c)→	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()

- 1) 主題別、教養科目、セミナーのクラス分けに、マークカード方式を採用し、選択科目決定の効率化をはかりました。
この方式についての感想を1つ選んでマークして下さい。

() 非常に良い
() 良い
() 改良すべき

※改善への提案があればここに書いて下さい。

- 2) 授業科目(授業クラス)の志望を決めた基準はどれになりますか。

主題別、教養科目、セミナーについて、(a)~(f)の選択肢の中から、それぞれ2つまで選んでマークして下さい。

(選択肢)	主題別	教養科目	セミナー
(a) シラバス(授業科目案内)	(a) ()	(a) ()	(a) ()
(b) 授業科目の名称	(b) ()	(b) ()	(b) ()
(c) 高校で受けた授業との関連	(c) ()	(c) ()	(c) ()
(d) 入試科目との関連	(d) ()	(d) ()	(d) ()
(e) 教育の評判・先輩の助言	(e) ()	(e) ()	(e) ()
(f) 授業科目がどの主題群に属しているか	(f) ()		

※(a)~(f)以外の基準で志望を決めた場合は、それをここに書いて下さい。

- 3) 授業科目の志望を決めるのに、シラバス(授業科目案内)は参考になりましたか。

主題別、教養科目、セミナーについて、(a)~(d)の選択肢の中から、それぞれ1つ選んでマークして下さい。

(選択肢)	主題別	教養科目	セミナー
(a) 大変参考になった	(a) ()	(a) ()	(a) ()
(b) ある程度参考になった	(b) ()	(b) ()	(b) ()
(c) あまり参考にならなかった	(c) ()	(c) ()	(c) ()
(d) ほとんど参考にならなかった	(d) ()	(d) ()	(d) ()

- 4) シラバス(授業科目案内)の記載はわかりやすかったですか。

主題別、教養科目、セミナーについて、(a)~(d)の選択肢の中から、それぞれ1つ選んでマークして下さい。

(選択肢)	主題別	教養科目	セミナー
(a) 理解しやすかった	(a) ()	(a) ()	(a) ()
(b) ほぼ理解できた	(b) ()	(b) ()	(b) ()
(c) あまり理解できなかった	(c) ()	(c) ()	(c) ()
(d) ほとんど理解できなかった	(d) ()	(d) ()	(d) ()

- 5) 次の①~④の項目に関して、

主題別、教養科目、セミナーについて、(a)~(d)の選択肢の中から、それぞれ1つ選んでマークして下さい。

- ① 授業内容とシラバスの整合性

(選択肢)	主題別	教養科目	セミナー
(a) シラバスどおりであった	(a) ()	(a) ()	(a) ()
(b) ほぼシラバスどおり	(b) ()	(b) ()	(b) ()
(c) ややシラバスと異なった	(c) ()	(c) ()	(c) ()
(d) シラバスと異なった	(d) ()	(d) ()	(d) ()

- ② 授業の抽選結果

(選択肢)	主題別	教養科目	セミナー
(a) 満足	(a) ()	(a) ()	(a) ()
(b) ほぼ満足	(b) ()	(b) ()	(b) ()
(c) やや不満足	(c) ()	(c) ()	(c) ()
(d) 不満足	(d) ()	(d) ()	(d) ()

- ③ 授業の満足度

(選択肢)	主題別	教養科目	セミナー
(a) とても良かった	(a) ()	(a) ()	(a) ()
(b) ほぼ満足	(b) ()	(b) ()	(b) ()
(c) やや不満足	(c) ()	(c) ()	(c) ()
(d) 不満足	(d) ()	(d) ()	(d) ()

- ④ クラスサイズについて

(選択肢)	主題別	教養科目
(a) 130人以上が適切	(a) ()	(a) ()
(b) 120人程度が適切	(b) ()	(b) ()
(c) 100人程度が適切	(c) ()	(c) ()
(d) 80人以下が適切	(d) ()	(d) ()

実物はB4判

1) マークカード方式(主題別。教養科目、セミナーのクラス分けに採用)

- ① 非常に良いと良いを合わせた割合は、全体で80%強である。

カード方式は、学生に受け入れられた。

他の選択科目のクラス分けに、今後マークカード方式の導入が好ましい。

- ② 今後の改良点

(a) 発表方法を工夫し、スムーズに学生のレスポンスをとる。

(b) 新カリにおいて、学生の希望にそえる授業科目の本数を多くするよう検討し対処する。

(c) 学生の自由記載からのコメントを参考に改良する。

2) 授業科目(授業クラス)の志望決定の基準(2つまでの選択肢をマークさせた。)

- ① 3つの授業科目において、第一位はシラバスを基準に決定している。

- ② 第二の基準は、主題別科目においては、主題群である。

教養科目においては、人文と教育コースについて「高校の授業」である。

理系のコースについて、「評判・助言」である。

3) 授業科目の志望決定にシラバスが参考になったか。

- ① 主題別科目：全コースについて、大変参考34%、ある程度55%、両者合わせ89%

- ② 教養科目：主題別科目に比べて、参考の割合が低い。

(文系には理科系科目、理工系には文科系科目を履修させることが原因と推察。教育コースは、教養科目A・B両分野の科目を履修するので、参考の割合が高い。)

- ③ セミナーは、「大変参考」と「ある程度」の和が、80%を切った。

4) シラバスの記載が学生に分かりやすいか。

- ① 理解しやすい20%を割っている。

- ② 「授業選択にシラバスを参考にした。」とする学生の、シラバスについての評価割合は、「大変参考のなった」と回答した学生の2/3は、「理解しやすい」であった。

従って、シラバスの記載をさらに改善することが好ましい。

5) 授業の満足度等について

- ① 授業内容とシラバスの整合性

(a) 「整合性が良い」と「ほぼ整合」の和を見る。

主題別科目：70%強、教養科目：80%強、セミナー：60%強

(b) 整合性の改善が、好ましい。

- ② 抽選結果

(a) 「満足」と「ほぼ満足」の和を見る。

主題別科目：75%強、教養科目：約70%、セミナー：65%近傍

- (b) 満足が、約40%
- (c) 不満足割合が、セミナーで高い。

③ 授業の満足度

- (a) 「とても良い」と「ほぼ満足」の和の割合を見る。
全体コースにおいて、60%近傍である。
- (b) 人文コースの教養科目の満足度が低い。
- (c) セミナーで、「とても良い」割合が約20%、また不満足割合が約20%で、この不満足割合を低くすることが好ましい。(少人数クラスの利点と問題点)

④ クラスサイズ（主題別科目と教養科目）

- (a) 100人程度が1位である。80人以下の第2希望を今後どのように運用するか。
旧カリキュラムに基づくの彼官配置と新カリキュラムの問題の検討が必要である。
- (b) 教養科目に関して、100人以上のクラスの希望者が、主題別科目に比べやや多い。

6) アンケート項目の相関について

A) 全コースについて

- ① シラバスの整合性と授業の満足度
 - (a) 相関がある。
 - (b) セミナーの不満足の整合性の悪さが相関として明らか。
- ② 抽選結果と授業の満足度
 - (a) 教養科目とセミナーにおいて相関性が高い。
 - (b) 主題別科目では、教養科目とセミナーより相関が低い、シラバスの整合性と授業の満足度と比べると相関は高い。
- ③ シラバス記載とクラス選択に利用
 - (a) 記載が「理解しやすい」「ほぼ理解出来る」には、明らかに相関みられる。
 - (b) 非参考は、シラバスでない別の選択基準によっていると思われる。

B) 各コースについて

1部のグラフを参考のまでに作成した。